

序 文

「社会基盤メンテナンスエキスパート（ME）養成講座」は、平成26年度より開講し、愛媛および四国地域の社会基盤のメンテナンスにおいて即戦力となる人材育成を目的として、“四国ME”を育成してきました。我が国における今後の社会基盤の老朽化の増大と地域における社会環境の縮退が進む中、社会生活の基盤となるインフラ施設の維持管理を担う人材としてさらに多くの四国MEの養成が必要とされています。

本講座は、文部科学省平成26～28年度「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進事業」と平成29年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」による「地域ニーズに応えるインフラ再生技術者育成のためのカリキュラム設計」により構築されました。その運営のための経費も文部科学省の研究費より充当してきましたが、平成30年度以降は地域において独力で運営することが求められました。幸いにも、本年度は一般財団法人上田記念財団様より「平成30年4月度第9期地球環境維持活動費助成」を受けるなどのご支援を得て、従来と同様に受講料無償での運営を継続できました。さらに講師の皆様をはじめ関係各位よりご助力をいただき、本年度も講座の開講を無事に終え、報告書の刊行に漕ぎつけることができましたこと、関係各位に衷心より感謝申し上げます。

本年度は22名が認定試験に合格し、四国MEは総勢119名となりました（目標200名）。本講座は平成28年度から愛媛大学の「履修証明プログラム」となり、また文部科学省の「職業実践力育成プログラム（BP：Brush up Program）」に認定されています。そしてプログラム修了生に付与される“四国ME”の資格は、平成29年2月に四国に本拠を置く機関・団体では初めて国土交通省の規定を満たす「公共工事に関する調査及び設計等の品質確保に資する技術者資格」（民間資格）に認定されました。このような資格制度に関わる整備を進めるとともに、ME養成講座のカリキュラムについてもより充実させることに力を注いでいます。この改善の成果は、受講前後のアンケート調査（維持管理に関する意識調査）と受講前後の実力診断試験より、各々の意識と基礎力の大きな伸びとして確認できます。

本年度は「平成30年7月豪雨災害」のために愛媛県下にも甚大な被害が発生し、その被災地の行政や建設・コンサルタント会社等の土木技術者の多くは本講座の受講がままならない中での開催となりました。さらに来年度以降は、受講料の有料化などの改革も待ち受けています。しかしながら、社会インフラの安全性と信頼性の向上および維持管理コストの縮減のためには、引き続き、地域の産官学が連携・協力して技術者のレベル向上を図っていく必要があります。これまでの関係各位のご尽力に感謝申し上げますとともに、今後ご支援のほどお願い申し上げます次第です。

平成31年2月

愛媛大学防災情報研究センター長 森脇 亮